



フォーシーズンズ ロンドン アット テン トリニティ スクエア「Four Seasons Hotel London at Ten Trinity Square」の正面ファサードは、コリント式の豪華な大理石の列柱が構えるポサール様式の建物で、エドウィン・クーバー卿によって設計された。フォーシーズンズ・ホテルズはこの建物を全面改修し2017年にオープンさせた。



フォーシーズンズホテルが入る建物「Ten Trinity Square」は1922年に当時のイギリス首相ロイド・ジョージの提唱により、ロンドン港湾局の旧本部ビルとして建築された



1946年には第1回国連総会の会議場となった「Ten Trinity Square」。いかにも大英帝国をイメージさせる威風堂々とした風格が漂う

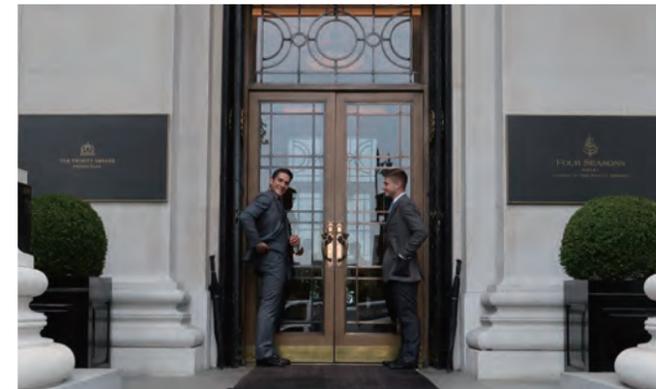


筆者 小原 康裕
 国際ホテルジャーナリスト
 慶応義塾大学法学部法律学科卒。
 1974年 Munich Re 入社。
 2001年投資顧問会社原健設立、
 代表取締役 CEO。
 JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント
 協会常務理事。
 SKAL International Tokyo、
 Professionnels du Tourisme 会員。
 JARC、日本宿泊施設関連連協会
 アドバイザリーボードメンバー。
www.jhrca.com/worldhotel/?cat42
www.hoterresonline.com
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。



館内に一歩踏み入ると正面にラウンド状のラウンジ「Rotunda Lounge」が姿を現す。ホテルの顔ともいえる壮麗なダイニングラウンジで、奥に「Rotunda Bar」を併設している



ある種近づき難いエントランスだが、正装したスーツ姿のドアマンがエントランスに立ち、ゲストをエスコートしてくれる



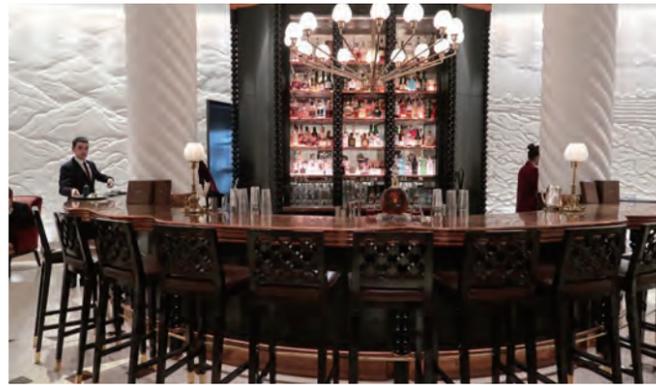
正面エントランスとラウンジ「Rotunda Lounge」の間にあるエントランスホール。フォーシーズンズホテルの代名詞である生花のディスプレイが美しい

Four Seasons Hotel, Ten Trinity Square

フォーシーズンズホテルが入る建物「Ten Trinity Square」は1922年に当時のイギリス首相ロイド・ジョージの提唱により、ロンドン港湾局の旧本部ビルとして建築されたものである。1946年には第1回国連総会の会議場となり、レセプション会場となった国連ホール「UN Ballroom」は見事に復元され、その栄光を今に伝えている。また2012年には映画007シリーズ『Skyfall』の撮影の舞台となり、ロンドン有数の歴史的建造物でもある。フォーシーズンズ・ホテルズはこの建物を全面改修し、去年

2017年にフォーシーズンズ ロンドン アット テン トリニティ スクエア「Four Seasons Hotel London at Ten Trinity Square」としてオープンさせた。(以後、FS/TS)

FS/TSの近隣に世界金融の中心地である「シティ」を擁し、世界遺産に登録されているロンドン塔やランドマークでもあるタワーブリッジも徒歩圏内、まさに“文化・歴史”と“ビジネス・金融”が交わる理想的な位置関係にある。客室構成は気品ある客室・スイートのほかに、上層階にホテルと一体となった41室のプライベートレジデンスを用意し、会員制の「Private Member's Club」を設置して世界中の富裕層から利用されている。



ラウンジ「Rotunda Lounge」の奥に用意されたスタイリッシュな「Rotunda Bar」



チャイニーズと日本料理を併せたレストラン「Mei Ume」。世界屈指の女性シェフ Anne-Sophie Pic がロンドンに初進出した「La Dame de Pic London」も話題だ



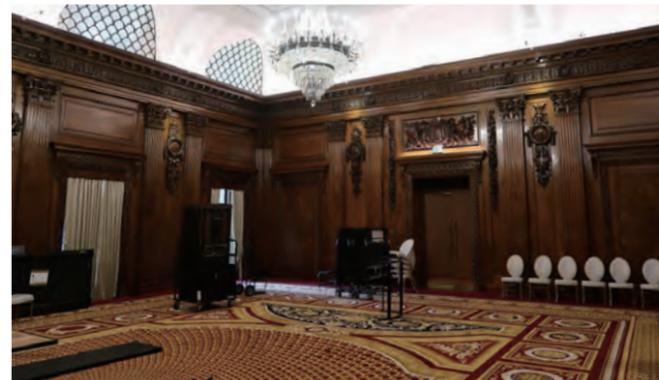
スパ施設「The Spa at Ten Trinity Square」のレセプションデスク。ロンドン屈指のゴージャスなプールとウェルネスを完備している



ホテル内にある会員制クラブ「Private Member's Club」のレセプションルーム



会員制クラブ「Private Member's Club」内にあるワイン・テイastingルーム



1946年に開催された第1回国連総会のレセプション会場となった国連ホール「UN Ballroom」。現在は見事に復元され、その栄光を今に伝えている

FS/TSの正面ファサードはコリント式の豪壮な大理石の列柱が構えるボサール様式の建物で、エドウィン・クーパー卿によって設計された。ある種近づき難いエントランスだが、正装したスーツ姿のドアマンがエスコートしてくれる。館内に一步踏み入ると正面にラウンド状のラウンジ「Rotunda Lounge」が姿を現す。ホテルの顔ともいえる壮麗なダイニングラウンジで、奥に「Rotunda Bar」を併設している。今回は175㎡の広さを誇る「Presidential Suite」を紹介したい。FS/TSのトップスイートで、専用のコートヤードを備えている。レストランは世界屈指の女性シェフである Anne-Sophie Pic がロンドンに初進出した

「La Dame de Pic London」が話題を集め、チャイニーズと日本料理を併せた「Mei Ume」も面白い。スパ施設「The Spa at Ten Trinity Square」にはロンドン屈指のゴージャスなプールとウェルネスを完備している。

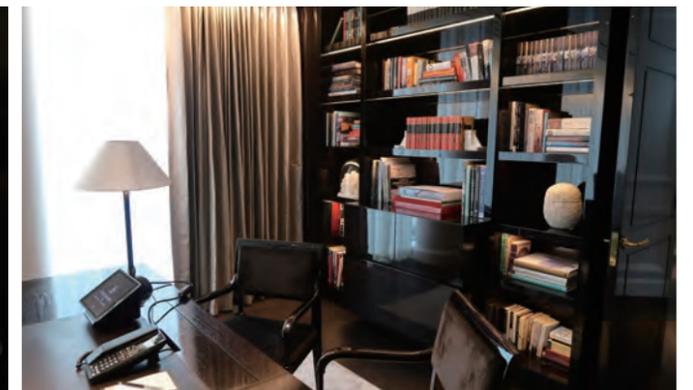
フォーシーズンズブランドはロンドンに2軒のホテルを展開している。FS/TSはメイフェアにある華やかな「パークレーン」 「Four Seasons Hotel London at Park Lane」とは違う、いかにも大英帝国をイメージさせる威風堂々とした風格が漂う。「シティ」でのビジネス対応はもちろん、ロンドン塔やタワーブリッジ等の観光でも利用できる大人のホテルと言えよう。



175㎡の広さを誇る「Presidential Suite」のベッドルーム。「Four Seasons Hotel London at Ten Trinity Square」のトップスイートで、専用のコートヤードを備えている



バスルーム側から望む落ち着いた静寂感のベッドルーム



ダークトーンのウッドパネルが重厚感を演出するエグゼクティブデスク



広大な面積を確保したリビングルーム



モザイクタイルが美しいバスルーム